



SUBARU

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

2009

[フルレポート]

地球と社会と人にやさしい企業を目指して



スバルのありたい姿
「存在感と魅力ある企業」を目指して



特集1 「富士重工業 CSR座談会」

地域に根付いた CSR活動の現状と展望

各事業所・製作所のCSR推進責任者による座談会を開催し、今後のCSR活動への想いを語りました。



P11

特集2 「販売特約店の取り組み」

富士スバル株式会社の CSR

富士スバル株式会社が実践するCSR活動に焦点を当て、34年連続「スバルダイヤモンド賞」受賞の秘密を探りました。



P13

特集3 「スバルの“地球温暖化対策”」

商品開発での 取り組み

世界共通の重要課題「地球温暖化防止」への、スバルとしての取り組みを紹介しています。

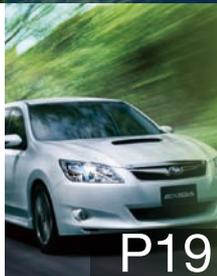


P15

特集4 「快適・信頼の新しいスバルの走り」

スバルの7シーター 「エクシーガ」が目指したもの

お客様のニーズに合わせて新車開発に取り組み、スバルならではの多人数乗用車「エクシーガ」の開発に成功しました。



P19

特集5 「世界に向けて、地域に向けて」

産業機器カンパニーと 社会とのかかわり

産業機器カンパニーの、「ロビン」ブランド商品によるグローバルな社会貢献、また、埼玉県を拠点とする企業としての地域貢献活動を紹介しています。



P21

3	編集方針
4	報告メディアの考え方
5	トップメッセージ
7	CSR・環境担当役員メッセージ
8	富士重工業グループの概要
9	事業紹介
<hr/>	
11	特集1 富士重工業 CSR座談会
13	特集2 販売特約店の取り組み
15	特集3 スバルの“地球温暖化対策”
19	特集4 快適・信頼の新しいスバルの走り
21	特集5 世界に向けて、地域に向けて

【社会性報告】

23	CSRマネジメント
27	コーポレート・ガバナンス
28	リスクマネジメント
29	コンプライアンス
31	すべてはお客様ののために
35	お取引先とともに
36	株主の皆さまとともに
37	従業員とともに
40	社会とのかかわり

【環境報告】

43	環境マネジメント
49	第4次環境ボランティアプラン
51	クリーンな商品
55	自動車リサイクル
58	クリーンな工場
61	クリーンな物流
62	クリーンな販売・サービス

【サイトレポート】

63	群馬製作所
66	宇都宮製作所
69	埼玉製作所
71	東京事業所
73	本社
75	国内関係会社
78	海外関係会社
<hr/>	
81	環境・社会への取り組みの歴史
83	第三者評価
84	第三者評価をいただいて

2009 CSRレポートは、冊子版(ダイジェスト)とweb版(フルレポート)を発行しています。
報告メディアの考え方については、4ページをご覧ください。

編集方針

本レポートは、富士重工業株式会社・国内関連会社・海外関連会社のCSR(企業の社会的責任)の取り組み成果をご紹介します。お客さま・株主の皆様、お取引先・地域社会・従業員などのステークホルダーとコミュニケーションを図り、取り組み内容のさらなる向上を目指すことを目的として発行しました。

なお、本レポートは冊子版(ダイジェスト)とweb版(フルレポート)で構成されています。ポイントを絞った内容を冊子版に、当社各工場、関連企業の活動を含め、詳細な活動内容をweb版に掲載しています。中でも、よりステークホルダーにお読みいただきたい特徴的な取り組み成果については特集記事として取り上げています。

(冊子版、web版の掲載内容については4ページをご覧ください。)

【環境・社会活動ご紹介ページのアドレス:

<http://www.fhi.co.jp/about/envi/report/index.html>】

また、本レポートの内容につきましては、2007年度版から引き続きCSRコンサルタントの海野氏(株式会社創コンサルティング代表)に第三者評価を依頼しました。これは当社が「社会的責任を全うする企業」を目指した取り組みを進めるうえで、役立つ意見、評価を継続的にいただきたいと考えたからです。この評価書は本レポート83ページに記載しています。

対象範囲

対象企業

富士重工業株式会社(主要生産拠点の所在地)

- スバル自動車部門
[群馬製作所(群馬県太田市ほか)、東京事業所(東京都三鷹市)]
- 産業機器カンパニー[埼玉製作所(埼玉県北本市)]
- 航空宇宙カンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)]
- エコテクノロジーカンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)]

国内関係会社(国内関連企業部会参画の5社)

- 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
- 富士機械株式会社(群馬県前橋市)
- 株式会社イチタン(群馬県太田市)
- 桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
- 株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

海外関係会社(北米環境委員会参画の5社)

- SIA:Subaru of Indiana Automotive,Inc.(インディアナ州ラファイエット)
- SOA:Subaru of America,Inc.(ニュージャージー州チェリール)
- SC1:Subaru Canada,Inc.(オンタリオ州ミシサーガ)
- SRD:Subaru Research & Development,Inc.(ミシガン州アンナーパー)
- RMI:Robin Manufacturing U.S.A.,Inc.(ウィスコンシン州バドソン)

上記以外の関係会社につきましては一部活動状況を紹介しています。

対象期間

2008年度(2008年4月~2009年3月)の実績と一部それ以前の取り組みや本レポート発行直前までのものを含みます。

※海外関係会社については2008年1月~12月の実績となります。

発行時期

前回発行:2008年7月

今回発行:2009年8月

次回発行予定:2010年7月

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

本レポートに関するお問い合わせ先

富士重工業株式会社 総務部 CSR環境推進室
〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号 スバルビル
TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2381

2008社会・環境報告書 第三者評価への対応について

昨年度いただきました第三者評価に次のように取り組んでいます。

【CSR活動全体】

■今後ともCSR担当者だけでなく、富士重工業の社員全員が意識を高く維持していきけるよう、継続的な取り組みを進めること

●CSR活動は企業としてのトップダウンによる組織レベルの取り組みに加えて、ボトムアップによる個人レベルの取り組みによる活動が重要です。当社では、個人レベルの取り組みとして従業員全員が継続的に取り組める共通活動項目である3つの柱(環境、交通安全、地域貢献)を掲げ、すべての製作所、事業所で計画的に活動を展開しています。今後も、この共通項目を基本として活動を推進していきます。

■自動車を中心としたモノづくり会社として基本的(守りの)CSRと戦略的(攻めの)CSRの両面を保つこと

●お客さまに喜んでいただける製品・サービスを継続的に提供するモノづくり企業の基本要件として、守りのCSRと攻めのCSRを明確にするためにCSR方針を改定しました。今後、このCSR方針の展開、浸透を図っていきます。

「CSR方針」

1. 私たちは、富士重工業の企業行動規範に基づき、法令、人権、国際行動規範、ステークホルダーの権利およびモラルを尊重します。(守りのCSRとして、企業行動規範や重要項目を明示しました)
2. 私たちは、企業市民として、現代社会が抱える世の中の社会問題の改善に向けて取り組みます。(攻めのCSRとして、事業活動を通じて社会課題に寄与する企業市民であることを明示しました)

■自動車会社ならではの特色ある戦略を柱とし、企業の姿勢が読み手にも明確にわかる報告書を目指すこと

●クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、世界的な課題である環境問題や安全・安心なサービスなどへの対応などさまざまな社会課題への対応を進めていることを読者の方々にご理解いただけるようなレポートを目指しました。今後とも重要な課題として改善を進めます。

【トピック別】

■CSR調達ガイドライン構築に向けた準備を計画的に進めること

●2008年6月に最新の環境関連法規と社会のニーズに対応するため、グリーン調達ガイドラインを改定発行しました。CSRに関する世の中の動きや業界動向との整合性を踏まえながら、2011年のCSR調達ガイドライン設定に向けて計画的に推進していきます。

■富士重工業グループ内に「お客さま第一主義」をより浸透させること

●モノづくり企業として、お客さまに喜んでいただける製品・サービスの提供は不可欠です。この「お客さま第一主義」のさらなる向上を目指した活動全般を本レポートで紹介し、併せて特集ページで販売店の活動例を報告しています。他部門の活動や考え方を共有することで、さらなる「お客さま第一主義」浸透を図っていきます。

■CSRでのPDCAの展開を徹底すること

●全社組織であるCSR・環境委員会において、全社のCSR活動のPDCAによるマネジメントを推進しています。また、2008年には、北米の関連企業を中心に「北米CSR委員会」を立ち上げました。今後、グループ、グローバルでCSR活動の確実な展開と徹底のレベルアップを図っていきます。

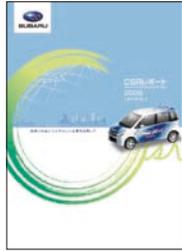
■報告の媒体(冊子、webなど)と内容を整理すること

●今回よりレポート名をCSRレポートと改称し、冊子版とweb掲載版の区分けを見直しました。今後も継続的に改善を進めていきます。



冊子版 (ダイジェスト)

富士重工業グループのCSR
活動をポイントを絞って掲載



web版 (フルレポート)

各事業所・製作所の取り組み
も含め、富士重工業グループ
のCSR活動を網羅的に掲載



[環境・社会活動ご紹介ページのアドレス]

<http://www.fhi.co.jp/about/envi/report/index.html>

web版(フルレポート)CONTENTS

★: 冊子版に掲載していない項目

▶: web版で詳細情報を掲載している項目

編集方針

報告メディアの考え方

トップメッセージ

CSR・環境担当役員メッセージ

富士重工業グループの概要

事業紹介

特集

特集1「富士重工業 CSR座談会」

地域に根付いたCSR活動の現状と展望

特集2「販売特約店の取り組み」

富士スバル株式会社でのCSR

特集3「スバルの“地球温暖化対策”」

商品開発での取り組み

特集4「快適・信頼の新しいスバルの走り」

スバルの7シーター「エクシーガ」が目指したもの

特集5「世界に向けて、地域に向けて」

産業機器カンパニーと社会とのかかわり

社会性報告

CSRマネジメント

- ・ 企業理念
- ・ 企業行動規範
- ・ スバルのありたい姿
- ・ CSR方針
- ・ CSR経営

★ CSR推進体制と運営

▶ 2008年度の活動振り返りと2009年度の計画

コーポレート・ガバナンス

- ★ 基本的な考え方
- ・ コーポレート・ガバナンス体制
- ▶ 内部統制システム構築

リスクマネジメント

- ★ 基本的な考え方
- ★ リスク管理
- ・ BCPの策定

・ スバル販売会社社員の不幸事に関するお詫び

コンプライアンス

- ★ 基本的な考え方
- ▶ コンプライアンスの順守
- ▶ コンプライアンス体制と運営
- ▶ 2008年度コンプライアンス活動実績概要

すべてはお客さまのために

- ★ 基本的な考え方
- ▶ お客さまとのコミュニケーション
- ・ 高品質な製品の提供
- ▶ 安全なクルマづくり
- ▶ 福祉車両への取り組み

お取引先とともに

- ★ 基本的な考え方
- ▶ お取引先とのかかわり

株主の皆さまとともに

- ★ 基本的な考え方
- ▶ 株主の皆さまとともに

従業員とともに

- ★ 基本的な考え方
- ・ 人材育成
- ・ 仕事と家庭との両立を支援
- ★ 公的資格取得への支援
- ・ 60歳定年後の再雇用の促進
- ・ 障がい者雇用の促進

★ 快適職場形成

▶ 労働安全衛生

社会とのかかわり

- ★ 基本的な考え方
- ・ ボランティア活動支援
- ★ 交通安全普及活動
- ★ 大規模災害支援
- ▶ 地域イベントへの協賛・支援・寄贈
- ▶ 製作所・事業所開放イベント
- ▶ 地域清掃活動

環境報告

環境マネジメント

- ・ 環境方針・環境保全の運営基準
- ▶ 企業活動と環境への影響
- ・ 環境法規制の順守状況
- ★ 環境パフォーマンス

第4次環境ボランティアプラン

・ 第4次環境ボランティアプラン

クリーンな商品

- ★ 基本的な考え方
- ▶ 燃費の向上
- ▶ エクシーガの燃費向上の取り組み

▶ エコドライブ支援の取り組み

▶ 排出ガスのクリーン化

★ クリーンエネルギー自動車

★ 騒音対策

自動車リサイクル

- ★ 基本的な考え方
- ▶ 設計段階での取り組み
- ★ 使用済み自動車(ELV)の処理

クリーンな工場

- ★ 基本的な考え方
- ★ 投入資源量と発生物総量
- ★ 廃棄物削減
- ★ 水資源使用量低減への取り組み
- ★ 環境負荷物質の低減活動
- ★ 土壌・地下水汚染防止
- ★ PCB機器などの保管状況
- ★ 地球温暖化防止活動

クリーンな物流

- ★ 基本的な考え方
- ★ 完成車輸送における環境負荷の低減
- ★ 梱包資材の再利用化

クリーンな販売・サービス

- ★ 基本的な考え方
- ・ 使用済みバンパーの回収
- ・ 販売店での環境保全の取り組み

サイトレポート

★ 群馬製作所

★ 宇都宮製作所

(航空宇宙カンパニー・エコテクノロジーカンパニー)

★ 埼玉製作所(産業機器カンパニー)

★ 東京事業所

★ 本社(新宿サイト・大宮サイト)

★ 国内関係会社

★ 海外関係会社

★ 環境・社会への取り組みの歴史

第三者評価

第三者評価をいただいて



Top Message

「存在感と魅力ある企業」、 「社会的責任を全うする企業」の実現を 図ってまいります。

まずは、本書に関心をお持ちいただきました皆さまに感謝を申し上げます。

さて、2009年12月、デンマークのコペンハーゲンで、気候変動枠組条約第15回締約国会議COP15 (Conference of the Parties)が開催され、2013年以降の国際的温暖化対策の中期削減目標が決定される予定です。わが国では2009年6月10日に2020年の温室効果ガスの削減量の目標を2005年比▲15% (1990年比▲8%)とすることが決定されました。

スバルでは、産業界の一員としてこの目標達成に貢献すべく、自動車業界との連携を図りつつ最大限の努力をしていく所存です。

地球規模で持続可能な社会の実現に向けた取り組みが叫ばれるなか、ますます重要性の高まる地球温暖化防止をはじめとして、あらゆる環境問題に対する取り組みを強化、推進する必要があると考えております。

スバルでは、環境活動をCSR活動の最重要項目として認識するとともに、これらの社会問題に対処することが「企業市民」として当社が果たすべき使命と考え、スバルグループ全体での取り組みを進めております。

具体的には、2007年度から新たにスタートした「第4次環境保全自主取り組み計画」の達成に向け、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、低炭素社会実現と地球温暖化防止などのさまざまな社会問題に対して商品開発から生産、物流、販売、自動車リサイクルに至る事業活動のあらゆる段階を通じて、これまで以上に積極的な取り組みをグループの総力をあげて進めてまいります。

環境対応商品として燃費、排出ガス性能を大幅に改善したドライバーズカー「レガシィ」、電気自動車「プ

グイン ステラ」、多人数乗り車「エクシーガ」を発売しました。特に電気自動車は、走行時のCO₂排出量はゼロ、発電時からのCO₂発生量を考慮してもガソリン車と比較して、これを大幅に削減し、環境負荷が少なく、利便性と実用的な航続距離を兼ね備えた、新しいモビリティの可能性を提案します。

スバルの開発では「快適、信頼の新しい走り」と地球環境の融合を目指しています。そのなかで、環境保全に対応する取り組みとして、既存のパートレんの改良はもちろんのこと、電気自動車やハイブリッド車も重要な技術のひとつとして位置づけ、今後も一層の研究開発に注力していきます。

2008年後半よりサブプライムローン問題に端を発した金融危機の影響が実体経済へ波及し、自動車をはじめとした需要低迷、為替の円高進行、株安なども重なりたいへん厳しい経済環境となっております。当社はトヨタグループとの協業を活用して、商品ラインナップの拡充や開発・生産の協力体制を進めるとともに、既存生産設備の改善や設備効率の向上による合理化や省力化の推進、また国内スバル車販売網の再編および環境対応ならびにコスト低減などを主体とした構造改革による体質改善に取り組み、「存在感と魅力ある企業」、「社会的責任を全うする企業」の実現を図ってまいります。

2009 CSRレポートを通じて、スバルグループの社会や環境に対する取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をちょうだいできれば幸甚でございます。

代表取締役社長

森 郁夫

現在推進しております新中期経営計画の経営ビジョンとして「社会的責任を全うする企業」を掲げております。輸送機器メーカーである当社は、環境問題に対する大きな社会的責任があります。企業活動として地球環境問題と経済状況の変化に対処し得る企業をつくり上げることがこの経営ビジョンの具現化にほかなりません。

2008年度には、「社会的責任を全うする企業」の確実な実現を図るべく、世の中におけるCSRに対する関心の高まりやこれまでの社内状況、グループ、グローバル化への対応を踏まえ、当社のCSRの基本的考え方である「守りと攻めのCSR」を明確化すべく、CSR方針の見直しを検討し、2009年6月に改定いたしました。このCSR方針の改定を契機に、本年度から社会・環境報告書を改め、「CSRレポート」として発行いたします。

また、CSR活動に対する理解の啓発、浸透を図るため、従業員一人ひとりの個人レベルの取り組みとして、グループ共通のCSR活動3つの柱(1.環境活動 2.交

通安全活動 3.地域貢献活動)を定め、日常活動としての落とし込みを図りました。

さらに、CSR、環境に関する全社レベルのマネジメントの仕組みであるCSR・環境委員会に、北米CSR委員会を新たに設け、グループ、グローバルな推進体制を構築しました。当社の考え方に加えて、それぞれの地域の文化、習慣などの特質を尊重したCSR活動を進めてまいります。

当社は、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、環境問題、交通安全、地域貢献を中心にさまざまな社会的責任があります。その重大な責務に対して、商品だけではなく、企業活動としてグループ、グローバルで正面から取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、スバルをよろしく願い申し上げます。

取締役専務執行役員
CSR・環境委員会委員長

奥原一成



富士重工業グループの概要

会社概要 (2009年3月31日現在)

社名 富士重工業株式会社
(Fuji Heavy Industries Ltd.)

創立 1953年7月15日

資本金 1,537億円

従業員数 27,659名(連結)
12,843名(単独)

本社 〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
代表電話番号 03-3347-2111

売上高 14,458億円(連結)
9,692億円(単独)

営業利益/損 ▲58億円(連結)
▲245億円(単独)

経常利益/損 ▲46億円(連結)
▲248億円(単独)

当期純利益/損 ▲699億円(連結)
▲834億円(単独)

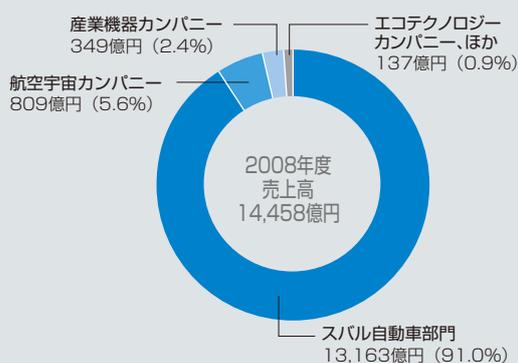
連結子会社 国内49社、海外19社

持分法適用の子会社 国内10社、海外5社

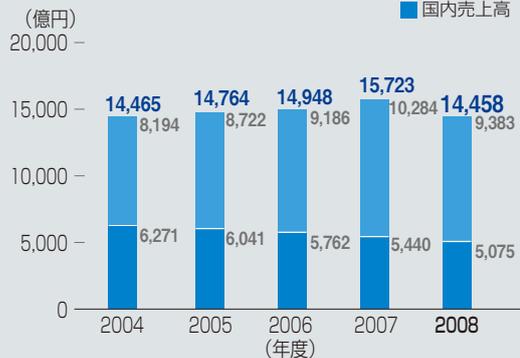
主な拠点紹介



2008年度売上高部門別比率(連結)



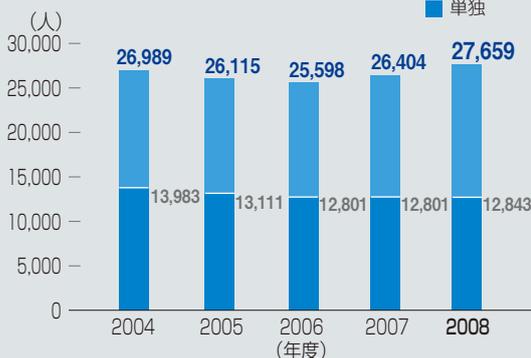
売上高推移(連結)



販売台数の推移(連結)



従業員数の推移



※1 本レポートでは、航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニーの生産拠点を「宇都宮製作所」と、また、産業機器カンパニーを「埼玉製作所」と表記している場合があります。

独創的な先進技術で、時代ニーズに対応した商品を開発・製造

富士重工業株式会社は、スバル[SUBARU]ブランドのもと、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして4つの事業部門を展開しています。「スバル自動車部門」「航空宇宙カンパニー」「産業機器カンパニー」「エコテクノロジーカンパニー」。その独創的な先進技術と個性により、快適で楽しい未来の創造に貢献します。



2009年5月に発売された5代目レガシィは、「新しい時代にふさわしい豊かさの提供」というテーマを具体化するため、20年間磨き上げてきたグランドツーリング性能に加え、快適性と環境性能を併せ持つクルマとして開発されました。

SUBARU Automotive Business

「すべてはお客さまのために」という姿勢で商品を提供 スバル自動車部門

所在地 | 群馬製作所(群馬県太田市、伊勢崎市、邑楽郡大泉町)
東京事業所(東京都三鷹市)

スバルは1958年に「スバル360」の発売で自動車メーカーとしてスタートを切って以来、日本の自動車産業の発展に寄与する個性的なクルマを送り出してきました。例えば、「スバル360」は、航空機づくりの思想をふんだんに採り入れた精緻なパッケージング、徹底した軽量化に斬新な技術的特長がありました。1966年に発売した「スバル1000」は、スバルの個性ともいえる水平対向エンジンを搭載。量産車として先駆けとなる前輪駆動（FF）レイアウトを採用しました。

1972年、世界初の乗用四輪駆動車を発売。以後スバルは、このレイアウトを「シンメトリカルAWD^{*1}システム」として確立してきました。1990年代以降、日本ではハイパワーターボエンジンと四輪駆動を組み合わせさせた高性能ステーションワゴン、米国では乗用車の快適性とSUVの機能性を融合させた「クロスオーバー」^{*2}という分野を切り開いてきました。

スバルは、「ドライバーズカー」として快適で楽しい走りと地球環境との融合を約束するクルマの開発を続けています。

国内関係会社

富士機械株式会社(群馬県前橋市)

事業内容:自動車部品・産業機械
農業用トランスミッションの製造、販売

株式会社イテタン(群馬県太田市)

事業内容:自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売

桐生工業株式会社(群馬県桐生市)

事業内容:スバル特装車の製造・スバル用部品の
物流管理・スバルエンジン、
トランスミッションなどの再生

株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

事業内容:自動車およびその部品の梱包、出荷、
陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

海外関係会社

SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.

スバルオブインディアナ オートモーティブ インク
(インディアナ州ラファイエット)
事業内容:米国におけるスバル車の製造、
トヨタ車の受託生産

SOA: Subaru of America, Inc.

スバルオブアメリカ インク
(ニュージャージー州チェリーヒル)
事業内容:米国におけるスバル車および部品の販売、整備

SCI: Subaru Canada, Inc.

スバルカナダ インク
(オンタリオ州ミシサーガ)
事業内容:カナダにおけるスバル車および
部品の販売、整備

SRD: Subaru Research & Development, Inc.

スバルリサーチ アンド ディベロップメント インク
(ミシガン州アンナーバー)
事業内容:北米市場におけるスバル車の研究開発

^{*1} AWD
All Wheel Drive 四輪駆動。

^{*2} クロスオーバー
1995年8月ステーションワゴンにSUVの機能性を融合させた
スバルアウトバックを発売。

Aerospace Company

航空機づくりの技術とスピリットを今に活かす

航空宇宙カンパニー

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)
半田工場(愛知県半田市)

1917年に創設された航空機メーカー「中島飛行機」。航空宇宙カンパニーはその航空機づくりの技術とスピリットを受け継ぎ、主翼などの複合材を含む航空機構造体の開発技術や、無人機分野でのIT技術、飛行制御技術を融合した高度システムインテグレーション技術など、さまざまなカテゴリーでナンバーワン技術を確立しています。その技術を応用し、ヘリコプター、固定翼機、無人機の開発・生産を行っています。

さらに、大型旅客機や小型ジェット機の開発・生産にも参画。世界レベルでの発展を目指して、新たな分野に積極的に挑戦しています。

国内関係会社

輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
事業内容:航空機部品の製造、販売

Industrial Products Company

地球のあらゆる場所で使われる汎用エンジンを量産

産業機器カンパニー

所在地 | 埼玉製作所(埼玉県北本市)

産業機器カンパニーでは、「ロビン」ブランドの汎用エンジンとロビンエンジンを搭載した商品を開発・生産・販売しています。ロビンエンジンは2,000種類以上の豊富なラインアップでお客さまのニーズに応え、社会の基盤をつくる建設機械や農業機械をはじめ、豊かな生活を彩るレジャー機器、発電機など、世界中で愛用されています。酷暑、極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所、使用条件で安定的に働き続けるため、性能向上に努めています。

海外関係会社

RMI : Robin Manufacturing U.S.A., Inc.
ロビン マニュファクチャリング USA インク
(ウイスコンシン州/バドソン)
事業内容:米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用のエンジンの製造、販売

Eco Technologies Company

住みよい環境と資源循環型社会に貢献する

エコテクノロジーカンパニー、ほか

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)

エコテクノロジーカンパニーは、廃棄物の収集運搬やリサイクル処理のための各種車両・装置など、住みよい環境と資源循環型社会に貢献する多様な製品を手がけています。またクリーンなエネルギーを生み出す風力発電システムを開発し、製品を通じて地球環境保全に取り組んでいます。

〈クリーンロボット部門〉

世界で初めて実用化した高層ビル無人清掃ロボットの技術は、屋外型清掃ロボットやごみ搬送ロボットの実証実験に応用されています。



2000年度から納入が開始された新型初等練習機T-7は、ターボプロップ・エンジンの採用により従来機に比べ性能向上と騒音低減が図られています。また冷暖房装置の搭載やコックピットを広くしたことにより居住性が向上されています。



EX35-40エンジンはチェーン駆動のOHC動弁機構の採用により、優れた環境性能と高性能を高次元でバランスよく融合させた汎用エンジンです。OHCならではの高効率燃焼室設計により、環境にやさしい低排出ガス性能、低燃費、低騒音や優れた始動性と、クラス最高レベルの出力性能を実現する次世代エンジンとして販売を開始しました。

塵芥車のグローバルスタンダードを目指して、当社と新明和工業株式会社が共同で次世代型新型回転板式塵芥車「G-RX」を開発しました。安全性や環境性能、積込効率の向上に取り組み、信頼性の向上を目指しています。

